

2. 宮崎県における災害発生状況

(I) 土砂災害

県内では毎年のように自然災害が発生していますが、なかでも土砂災害は、平成17年から平成28年の12年間に於いて、平均約53件も発生しています。

また、この12年間に於いて平均件数を上回った年は、平成17年、平成18年、平成28年の3ヶ年であり、特に平成17年、平成28年が突出していますが、これは、平成17年には台風第14号、平成28年には熊本地震や台風第16号により甚大な被害が発生したことによるものであると考えられます。

一方、平成20年から平成22年、平成24年から平成26年は土砂災害の発生が少ない状況となっており、県内における土砂災害の発生スパンの特徴として、数年に一度、多数の土砂災害に見舞われ、その年以降の数年間は土砂災害の発生が減少傾向になり、数年間ののち、再び増加傾向に転換していく傾向が見受けられます。

なお、発生した土砂災害の種類に着目すると、「がけ崩れ」の発生件数が明らかに多く、「地すべり」に関しては3、4年に一度の発生頻度となっています。

「土石流」においては、発生件数に対して高い割合で「災害関連緊急砂防事業」を実施していることから、毎年の発生件数は少ないものの、一度発生すると規模の大きな災害となる傾向があることが伺えます。

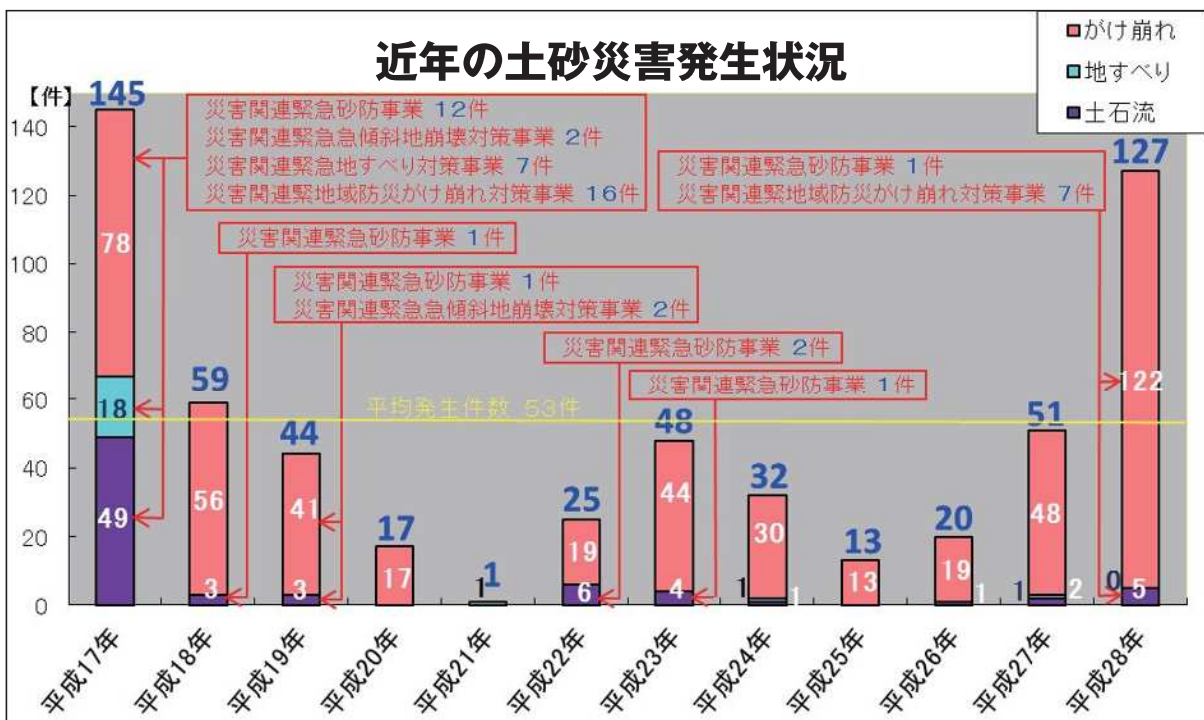


図2.1 近年の土砂災害発生状況

(II) 公共土木施設災害

台風や梅雨前線等による豪雨に伴い発生する、道路や河川、砂防などの既存施設の被災についても、土砂災害発生と似たような頻度で発生しています。

県と市町村を合わせた公共土木施設災害における、平成17年から平成28年までの平均発生箇所数は約620箇所であり、宮崎県が災害の多い県であることを改めて確認することができます。

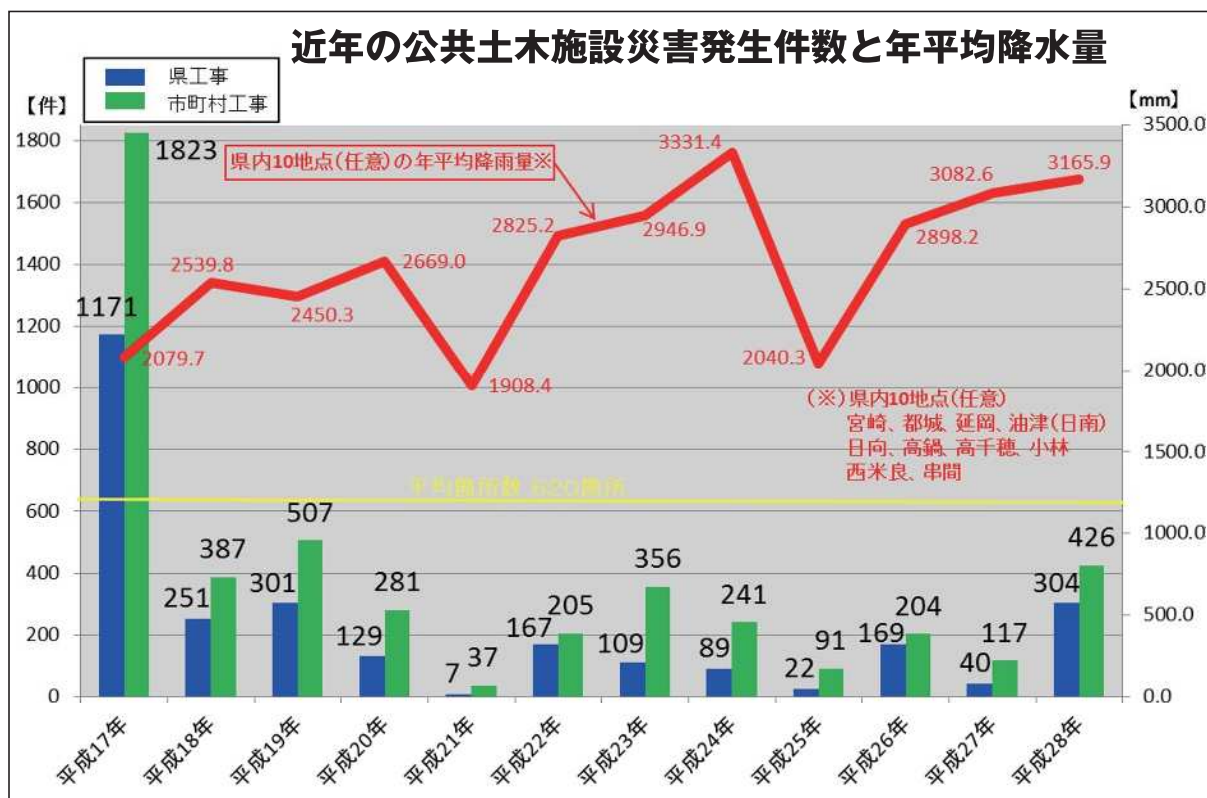


図2.2 近年の公共土木施設災害発生件数と年平均降水量

(III) 降水量との関係

平成17年から平成27年までの県内の主な観測局10地点（气象台所管雨量観測局）について、気象庁の公開データを基に取りまとめると、12年間の平均降水量は図2.2の折れ線グラフのような推移となります。

この平均降水量の推移によると、他の年に比べ平成21年、平成25年は降水量が少なく、同年に土砂災害（図2.1）や公共土木施設災害（図2.2）の発生が少なかったことはこのことに起因するものと推測できますが、平成17年は他の年と比較して降水量が多い状況ではないにもかかわらず、土砂災害発生数や公共土木施設災害箇所数は突出しており、降水量と災害等の発生件数は単純な相関関係ではなく、総雨量よりも、近年頻発している局地的、短期的な豪雨、いわゆる雨の降り方が大きく影響していると考えられます。